その時、これからの課題として研修会への出席と県下の病院図書室の勉強会の必要性を挙げたのですが、前向きに対処してくれる者がいないため、現在まで一度も開けていない状況です。

滋賀県下の市立病院図書室がこのような状態なのは、私達のアッピール不足も原因の一つだと思いますが、各病院のそれぞれの部門から図書室の必要性、重要性の声が挙がらないのも残念なことです。今後も病図協にご支援をお願いして、県下市立病院に図書室を確保していきたいと願っています。

また、この事例報告のためのアンケートは、私にとっては初めて依頼する側に立ったアンケートでした。日頃、自分宛てに来るアンケート依頼の締り切り期限をいい加減に扱っていたことを反省し、今後は依頼者側に立って考え、協力しなければいけないと痛感しました。

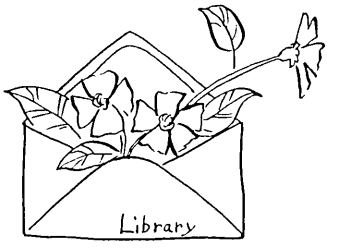
徳洲会病院と相互貸借

宮　西　美夕紀
（宇治徳洲会病院図書室）

昭和58年の春、宇治徳洲会病院に入職し、以来早や6年が過ぎようとしている。6年前、職場の先輩秦さんは協議会幹事の経験がある方で、協議会活動のことをいろいろと教えていただいた。初めて社会に出て、全くなじみのない医療関係の職場に入り、さらに未知の図書業務に携わることになった私は、当初は教えられた通りの業務をこなすことだけで精一杯であった。年に何回か開催される研修会への参加は他の図書室の方との貴重な交流の機会で、そこで聞く先輩方のアドバイスは時々行き詰まりそうになる仕事への刺激となった。

徳洲会という医療団体は各地に系列病院があり、現在近畿地区、地区外からも幾つかの病院が協議会に加入している。これらの病院はそれぞれ未だ歴史の浅い、若い病院で書籍数も少なく、図書室業務も医局秘書との兼務となっている。私もそんな一人であるが、協議会研修会はそういった系列病院の同職の方たちとの交流の機会でもあり、私にとっては図書室、医局業務をどうしたら両立させられるか相談し合える場所でもあった。

現在、私の図書室では書籍整理よりも文献の相互貸借に追われる日々が続いている。当院は医局にプロパーの出入りができないため、文献の入手については協議会の皆さんにお世話になりっぱなしで、何とか対策、方法はないかと思いながらも、現在行っているのは系列病院同士の話し合いで決めたファックスや電話による相互の文献相互貸借ぐらいなものである。

当院も開院11年目を迎え、少しづつではあるが雑誌製本も揃ってきた。当初は必要な文献の殆どを皆さんに依存してきたが、これからは「借りる」ばかりでなく、「貸す」方でも貢献できればと思っている。仕事においては未だ手探りで毎日失敗ばかりを繰り返しているが、今後も協議会の方々に教えていただきながら活用される図書室を作っていきたいと思っている。

最後に文献相互貸借でお世話になっている皆さんに紙面を借りて厚くお礼申し上げます。